

教科(科目)	社会	総時数	105時間	学年(コース)	1 学年
使用教科書	帝国書院『社会科 中学生の地理 (世界の姿と日本の国土)』 帝国書院『中学校社会科地図』				
副教材等	正進社『地理の資料』、文理『中学必修テキスト社会地理』、				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>①高い学力・幅広い教養・学び続ける姿勢を身に付け、グローバル（地域的・地球的）な視野から社会課題を多面的に発見・考察し、その解決に向けて挑戦・行動・発信する能力を育成します。</p> <p>②高い倫理観、他者を思いやる心、傾聴する姿勢、豊かなソーシャル・スキルを持った人物を育成します。</p> <p>③リーダーシップ・フォロワーシップを身に付け、地域社会・国際社会と協働する態度を育成します。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>①中高一貫教育を生かし、高い学力と学び続ける姿勢を身に付ける教育課程を編成するとともに、すべての教科・科目において「深い学び」を実現します。</p> <p>②読書、新聞・図書室の活用を奨励するとともに、体験活動を取り入れた教育課程により、幅広い教養を育みます。また、探究の過程を重視するとともに、最新の教育方法を積極的に活用します。</p> <p>③4技能をバランスよく育成する英語授業を実践するとともに、「生きた英語」を学習する機会としての海外研修やさまざまな発表活動に取り組みます。また、積極的に国際交流活動にも取り組んでいきます。</p> <p>④アイデンティティを形成しつつ地域理解を深め、地球的視野で自分なりの社会課題を発見し、科学的な手法を用いてその解決を目指す課題研究を6年間通じて実施します。</p> <p>⑤6年間一貫した方針による道徳や人権教育等を実施するとともに、生徒会活動、部活動、課外活動を通して、主体的・自律的に考え行動し、互いに支え、高め合いながら協働的に活動することを重視します。</p>

2 学習目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

- ①我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ②地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したりそれらを基に議論したりする力を養う。
- ③日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的、多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚を深める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸現象や地域的特色を理解するとともに調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに注目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	日本や世界の地域に関わる諸現象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・提出物、課題などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・提出物、課題などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物、課題などの内容の確認 ・授業への参加状況 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。		

6 学習計画

月	単元名	項目	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	世界と日本の地域構成	世界の姿	世界の6つの州と主な国の位置や名称や、緯度と経度のしくみを理解したり、地図帳のさくいんや統計資料を活用する。 国名や国旗、国境線の特徴から、その国の歴史や文化が分かることや、さまざまな種類の世界地図の特色を考察する。 地図や地球儀に親しみ、世界の地域構成や位置の表現方法について主体的に追究する。	5	定期テスト 週末課題 授業への参加状況
		日本の姿	世界の中での日本の位置や、日本の領域と領土をめぐる問題、日本の都道府県について理解し、世界の中での日本の位置を示し、日本と各地の時差を計算し時刻を求めたりする。 世界の中での日本の位置や広がりや日本と世界各国の時差、日本の領土・領域について、多面的・多角的に考察する。 世界の中での日本の位置や広がりについて関心を持ち、地球儀や地図を活用し、それらの事象を主体的に追究、解決する。	4	定期テスト 週末課題 授業への参加状況

5	世界のさまざまな地域	人々の生活と環境	<p>世界各地の人々の多様な生活と環境について、気候や地形などの自然環境と衣食住や宗教などの社会的条件を関連づけて理解する。</p> <p>世界各地の人々の多様な生活と環境について、自然条件や社会的条件を関連づけ、写真や地図、主題図などを活用して多面的・多角的に考察する。</p> <p>世界各地の人々の多様な生活と環境に対して関心を持ち、主体的に追究する。</p>	8	定期テスト 週末課題 授業への参加状況
5 6 7 8	世界の諸地域	1 アジア州 2 ヨーロッパ州 3 アフリカ州 4 北アメリカ州 5 南アメリカ州 6 オセアニア州	<p>世界の各州の基礎的・基本的な地域的特色を大観し、理解する。</p> <p>世界の各州の地域的特色や課題を、多面的・多角的に考察する。</p> <p>世界の各州の地域特色や課題を主体的に追究する。</p>	29	定期テスト 週末課題 授業への参加状況
8 9 10	日本のさまざまな地域	身近な地域の調査	<p>地図や景観写真、統計資料などを的確に読み取る技能や、地域調査を行う際の視点、方法を理解する。</p> <p>対象地域の地域的特色や課題をとらえるために適切な地理的事象を取り上げ、それらを多面的・多角的に考察する。</p> <p>対象地域の特色や課題を主体的に追究する。</p>	6	定期テスト 週末課題 授業への参加状況
		日本の地域的特色	<p>日本の地域的特色を、自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信の視点から、さまざまな資料を適切に選択して読み取り、理解する。</p> <p>日本の自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信などの地域的特色の変化や課題を、多面的・多角的に考察する。</p> <p>自然災害への対応や少子高齢化など、日本の地域的課題について主体的に追究する。</p>	12	定期テスト 週末課題 授業への参加状況
10 11 12 1 2	日本の諸地域	1 九州地方 2 中国・四国地方 3 近畿地方 4 中部地方 5 関東地方 6 東北地方 7 北海道地方	<p>日本の各地方の基礎的・基本的な地域的特色を大観し理解する。</p> <p>日本の各地方の特色ある地理的事象や事柄を、他の事象と有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察する。</p> <p>日本の各地方の自然環境や生活、産業などの地域的特色を、主体的に追究する。</p>	36	定期テスト 週末課題 授業への参加状況

1	地域の在り方	地域の在り方	解決に向けて考察・構想したことを適切に説明するとともに、地域の実態や課題解決の取り組みについて理解する。	5	定期テスト
2			地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などの着目し、そこでみられる地理的な課題について多面的・多角的に考察・構想する。		週末課題
3			地域の発展や持続可能な社会を目指すために、これからの地域の在り方について関心を持ち、主体的に追究する。		授業への参加状況

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・週末に、1週間の学習の復習として『必修テキスト』『単元サポート』を課題ノートに取り組み、週明けに提出します(週によっては「白地図読み取りワーク」や課題プリントなどを課す場合もあります)。
- ・定期考査終了後、考査に向けた取組の成果を提出します。
- ・春休み、夏休み、冬休みの休業期間にも課題を課すので、それらに取り組み提出します。

8 担当者からの一言

社会は、単純な暗記科目ではありません。新たに出てくる用語を覚える必要がありますが、「なぜ、そうなのか」「どんなしくみなのか」「関係していることは何なのか」などを、自分で説明できるようになることが大切です。そうすれば、苦手にならず、進んで学習できるようになるのではないのでしょうか。「わかる」ことが楽しくなるように、中学社会の学習の良いスタートを切りましょう。

(担当：長岡 大)